

# The Top Shelf

## Gaidai Library News



第4号



特集 Active Learning

## アクティブ・ラーニングの必然性

『第3の波』を著して世界を一躍席卷したアメリカの未来学者、アルビン・トフラーは、自ら学ぶ方法として、①教育は単に知識を伝達することではなく、探究活動の技能を伸ばすことであり、学び方を学ぶこと、②自分の成長・発達のためにすべてのリソースを活用すること、③生涯学習の時代にあって、急激に変化する世界で必要とされる知識・技能、態度を習得すること。これらの三つを挙げています。

現代は、カオス（ギリシャ語 *χάος*, *chaos* 「混沌」の意味）の社会と言われています。これからのグローバル化社会で生きていくために必要条件となった「生きる力」、即ち、自ら学び、自ら考え、判断し、表現する力、さらに周囲の環境や人と効果的に相互互惠関係を結び、それを変革・調整する社会的能力、具体的場面での能力 (ability/skill) に加え、まだ発揮されていない潜在的な能力 (potential) を含めるコンピテンス (competence) が求められています。

私たちは、持続可能な社会の構築のために、教育・学習において、自己の経験を基にし、経験主義的に、問題解決型・自己主導型学習、アクティブ・ラーニングを通しての学び方が不可欠ということになります。

外国語学部教授 岡澤潤次

今、大学教育が変わろうとしています。そこで重要なスローガンとなっているのが、「アクティブ・ラーニング」。教員による一方的な講義ではなく、学生が能動的かつ主体的に関わり、1回1回の授業で自分のスキルの成長を実感できる、そのような授業のことです。中宮キャンパスの図書館は今春、大幅にリニューアルをして、この「アクティブ・ラーニング」の場として生まれ変わります。春からの学びに意欲を燃やす方も、このところ図書館から足が少し遠のいてしまっていたという方も、ぜひ新しい図書館をキャンパス・ライフの場に加えてください。



## 関西外大ラーニング・コモンズ 完成！ Kansai Gaidai Learning Commons (KGLC)



らりーくん

5号館の図書館学術情報センター内にラーニング・コモンズが開設されました。これまでの図書の閲覧を中心としたエリアに加え、みなさんが様々な情報を活用し、有益な知見を作り上げ、発信する力を養う場になることでしょう。

主な施設は2階と3階に分散させて図書等を効果的に活用できるよう工夫されています。それぞれに、グループ学習エリアとして、プレゼンテーションの演習やディスカッションのためのスペースを設けており、得られた知見や自分の考えを仲間と共に大いに語り、発表することができます。

また、3階にはマルチメディアを活用した成果物の作成支援コーナーも設けられています。動画資料を編集加工したり、DVDに収録して配布したりすることなども可能です。さらに、ラーニング・コモンズでは専門の職員が支援を担当することとなり、みなさんの様々なニーズに応じてくれます。

このように、これからの時代の大学図書館は、現代社会で活躍するための様々な能力を養う場に生まれ変わろうとしています。関西外大に集い、共に学ぶ仲間と学問について語り合い、将来、世界で活躍できる力を身につけてくれることを期待しています。

It is with great enthusiasm that we would like to announce the grand opening of the Kansai Gaidai Learning Commons (KGLC) in the library. Moving beyond merely a quiet study location, the Commons is designed for lively active and cooperative learning with fellow students, as you discuss, prepare projects, and rehearse presentations in carefully designed spaces. These group workspaces are coupled with high-tech resources and full-time professional staff to support your various needs. Face your future by honing your skills alongside your classmates in the Learning Commons!



らいぶちゃん



## 企画展示～かんらぶ



学生ボランティアグループ「かんらぶ」によるオススメ本紹介コーナーが、テーブルから本棚へ舞台を替えてさらに人気を集めています。41点の選書やプロ顔負けの手作りポップにメンバーの個性があふれ、人気の本はほとんど常に貸出中です。“ポップだけお留守番”が特に多いのが、『セイン先生が目撃したおかしな英語』や『CAの私がVIPのお客様に教わった話し方のエッセンス』など、英語やCA関係の本。

自由な時間に企画力やデザイン力を磨ける「かんらぶ」の新規メンバーを募集中です。興味ある方はカウンターのリファレンスデスクまで。



## 学研都市キャンパス図書館学術情報センターより

### 新入生の皆さん、図書館を利用しましょう！

関西外大には、中宮と学研都市の各キャンパスに図書館があります。学研都市キャンパスの図書館には約17万冊の図書が収蔵されており、ドイツ語、フランス語、中国語に関する専門書が多いことが特徴です。また、孔子学院が設置されていることもあり、中宮に比べ中国関係の図書が充実しています。

2つの図書館は相互利用が可能です。本を借りるだけでなく、様々な情報を得る場所、交流の場所として両キャンパスの図書館を十二分に活用してください。

学研都市キャンパス図書館学術情報センター長 鵜島三壽



中宮キャンパス図書館学術情報センター



学研都市キャンパス図書館学術情報センター

## 和装本

学研都市キャンパス図書館には、いくつもの和装本が所蔵されています。和装本とは、日本の伝統的な製本法によって製作された書籍のことで、単に和本とも呼ばれます。その多くは本文を記した和紙をこよりや糸で綴じたものです。表紙は紙を2、3枚ほど重ねて裏打ちしていますが、中には金欄や錦などを裏打ちして使うこともあります。ほとんどのものは背表紙を持たず、表紙と本文の紙の大きさは同じです。

綴じ方には、数枚の紙を二つ折りにした綴葉装、二つ折りにした紙を重ね合わせ、折り目の反対側を綴じた袋綴、二つ折りにした折り目の部分を糊付けした粘葉装などがあります。現在見かける和本や古典籍の復刻本の多くは袋綴です。和装本は開架書庫に並ぶことがないため、学生の皆さんは見たことがないかもしれませんが、袋綴という言葉は聞いたことがあるのではないのでしょうか。





## 貴重書庫から



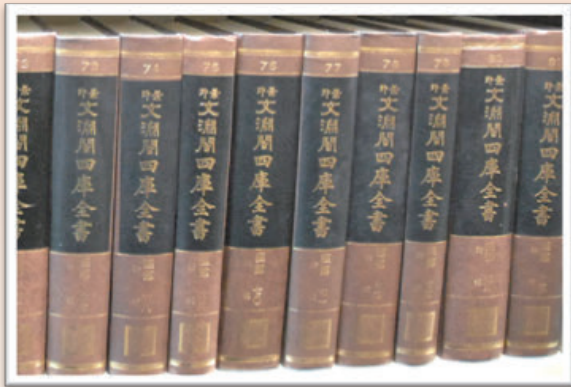
## 四庫全書

四庫全書は、清の乾隆帝（在位 1735～1795）が制作させた中国最大の叢書です。先秦代から清代前半に至るまで、当時集められるだけの重要な書籍を集め、3457種、7万9070巻（数に異同あり）の校訂、抄写を行い、経・史・子・集の4部（四庫）に分類しました。そのためこの名前がついています。



乾隆帝は乾隆6年（1741）から集書を始め、乾隆37年には四庫全書館を開設しました。紀昀が総編纂官となり、乾隆46年（1781）に完成しました。筆写に当たったのは四千余人といわれます。初め四揃いをつくり、紫禁城中の文淵閣、円明園離宮の文源閣、奉天行宮の文溯閣、熱河避暑山荘の文津閣に収蔵しました。その後、揚州、鎮江、杭州にも置かれました。このうち、円明園離宮の文源閣蔵書は第2次アヘン戦争（アロー戦争）により、揚州、鎮江のものは太平天国の乱により焼失しました。学研都市キャンパスには、紫禁城の文淵閣に置かれたものをもとにした四庫全書が収蔵されています。

四庫全書は、哲学・文学・史学・理学・工学・医学などあらゆる分野にわたっており、当時の学術体系を概観できるたいへん貴重な書籍です。ちなみに紫禁城とは今の故宮ですが、ここは世界文化遺産にも登録されています。



## 企画展示～ライブラリーサポーター



学研都市の図書館にも学生による企画展示などを行うライブラリーサポーターというグループがあります。これまでに取り組んだ企画展示は、「季節にあったオススメの本」「こんな本があったのか!」などです。昨年取り組んだ「映画原作本特集」は、たいへん好評でした。

ライブラリーサポーターの企画展示は、夏と冬に行っています。自分もライサポの企画に参加して、キャンパスに発信したいという方は、図書館カウンターまでお越しください。





## Why Study Comics at Kansai Gaidai?



Comic studies has a relatively short history. For most of that history, the discussion was not about comics, but about the existence of comic studies itself. Are comics worthy of study? Yes, there are definitely more important things than COMICS. However, comic studies has recently considered the medium as language, one of the most important elements for the human race. As a matter of fact, comics have a complex communicative system, which is very similar to other language systems. These unique forms of expression are, therefore, worthy subjects for students of foreign language, and the field of study can compliment other academic disciplines.

Studying comics is especially interesting, because, like all good art, the images are not made for utility. The illustrator and the scholar of the literature are shameless enough to spend time and effort for something that you do not need to survive. Such passions uniquely define us and give our lives special meaning.

### Literature about Comics and Language in KGU Library:

Thierry Groensteen: *The System of Comics*. Translated by Bart Beaty and Nick Nguyen, University Press of Mississippi, 2007.

Neil Cohn: *The Visual Language of Comics: Introduction to the Structure and Cognition of Sequential Images*. Bloomsbury, 2013.

Hannah Miodrag: *Comics and Language: Reimagining Critical Discourse on the Form*. University Press of Mississippi, 2013.

外国語学部助教 具本媛

### Comic Book Creation: Koo-sensei and Manga Class

The room is remarkably quiet for the flurry of activity that is going on: pens are sketching in wide strokes; tiny razor knives are etching out background screens; pencils are carefully tracing patterns over glowing luminescent boxes; and Koo-sensei patrols the room offering guidance, encouragement, and even friendly critique. This is Manga Drawing class and students are developing the skills to create and publish their own comic book volume, the climax of a semester's worth of efforts.

Prof. Bon Won Koo was born in South Korea, lived in Germany from 5th grade until her graduation from Bonn University, and studied at Kyoto Seika University, where she concentrated on manga research for her PhD. In the Gaidai Manga Studio, She is part psychologist, part creative midwife, and part shaman, as she coaches students on how to give ethereal characters from their imaginations a new 2-D existence.

Koo-sensei's formula for illustrative success is simple: keep drawing! She explains that manga is a product-oriented endeavor that allows considerable freedom to achieve the end result. With each new image, the budding mangaka cultivates the discipline to power through complicated frames. Likewise, manga production is a cooperative venture, and our students pull together to finish the course as nothing less than published artists.





## みなさんの「GAIDAI Mail」のメアドが変わりました from @kansaigaidai.ac.jp to @kansaigaidai.jp



2016年1月18日より、学生用メールアドレスのドメイン名が「@kansaigaidai.jp」に変わりました。旧アドレスに届いたメールの新アドレスへの自動転送は4月末で終了します。新システムでは、スマートフォンでのメールの送受信、ならびに最大150MBまでのメールの送受信が可能となりました。新しいメールシステムに関する詳細は、GAIDAI Portalをご参照ください。



## ライティングセンターのご利用について



中宮キャンパス6号館にあるライティングセンターでは、語学に関する資格取得や留学を目指す人を支援しています。

英語関係では、TOEIC、TOEFL、国連英検、IELTS、日商ビジネス英語検定、観光英語検定の問題集が揃っています。その他の言語では、中国語検定(1級～4級)、スペイン語検定(DELE)、仏検などの問題集があります。付属のCDを聞きたい場合は、CDラジカセも自由に使うことができます。資格取得や留学を目指す人は、ぜひご利用ください。

配置場所：ICC

(6号館1階7iステーション)

- \* 238冊の語学検定問題集を禁帯出にして置いています。
- \* 室内利用のみで貸し出しはできません。



## 学生向けノートパソコンの貸し出しについて



中宮キャンパス図書館学術情報センターでは、自学自習用にノートパソコンの貸し出しをしています。利用は、図書館内に限られますが、個人で借りることができます。貸し出しの方法等、詳しくは一階のレファレンス・カウンターでお尋ねください。

### 《編集後記》

春を待ちわびた蕾が花開き、中宮キャンパス中央の噴水は、春の光と交響曲を奏でています。学研都市キャンパスの円形ステージは、桜の花びらが舞い踊り、春の喜びを表現しているようです。*The Top Shelf* 第4号では、主体的かつ能動的な学びのスタイルを習得し、これからの学生生活をより充実し、実り多いものにしていただきたいという願いを込めて特集を組みました。発行にあたり執筆・編集にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。次号は10月発行予定です。どうぞお楽しみに!

図書館学術情報センター運営委員会

- \* 利用案内は図書館学術情報センターのホームページの開館カレンダー及び利用ガイドをご覧ください。

### *The Top Shelf*

第4号

2016年4月発行

関西外国語大学図書館学術情報センター  
<http://opac.kansaigaidai.ac.jp/library/>

[中宮キャンパス]  
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1  
TEL (072) 805-2801(代)

[学研都市キャンパス]  
〒573-0195 大阪府枚方市穂谷1丁目10-1  
TEL (072) 858-0021(代)

- \* Gaidai Library News *The Top Shelf* は、中宮・学研都市両キャンパスの図書館学術情報を掲載することになりました。今後とも引き続きよろしくお願いたします。